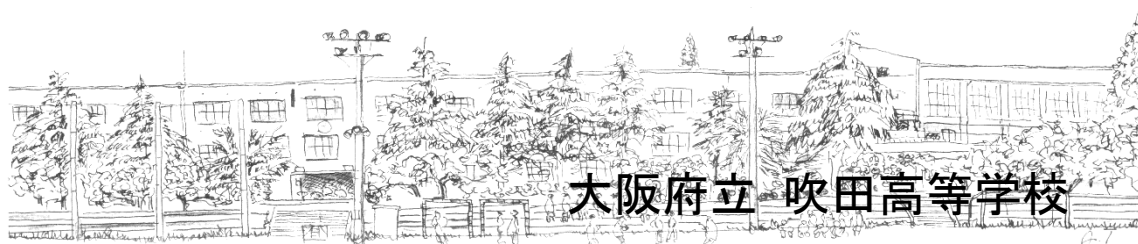


平成30年度

シラバス (年間授業計画)

—地歴・公民科—



大阪府立吹田高等学校

も く じ

現代社会	1
世界史 A	5
世界史 B (2年)	9
日本史 A	12
日本史 B (2年)	17
世界史 B (3年進学理系)	21
世界史 B (3年進学文系)	24
日本史 B (3年進学理系)	27
日本史 B (3年進学文系)	34
地理 A	41
政治経済	47



平成30年度 公民科

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「高等学校 改訂版 現代社会」 (第一学習社)						
副教材等	ニュービジョン 現社 (浜島書店)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・わたしたちの身近なことから現代の社会とはどのようなものか考えていきましょう。
- ・グループでの話し合いなどへの主体的な参加を期待します。

2 学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的現象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的現象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第1編 私たちの生きる社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題, 資源・エネルギー問題 ・高度情報社会と私たちの生活 	○		○	○	a: 現代の諸問題について, 自らの問題として考える態度を身につけている。 b 設定された主題について, 多面的・多角的に考察し, その過程や結果を適切に表現できる。 c: 設定された主題について, 事例の考察に必要な諸資料を収集し, 有用な情報を選択して, 読み取ることができる。 d: 現代の諸問題の内容や解決に向けての取り組みについて理解できる。	定期考査 ワークシート
	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方	第1章 現代に生きる青年 <ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義と自己形成の課題 ・現代社会における青年の生き方 ・伝統や文化と私たちの生活 	○	○	○	○	a: 青年期の心理にはどのような特徴があるのか, 自分自身の問題として考える態度を身につけている。 b: 青年期の意義について, 具体的な事例をもとに多面的・多角的に考察している。 c: 教科書に掲載されている写真・図版・意識調査・資料などを適切に使用している。 d: 青年期の意義や青年期の心理について, それらがどのようなものか理解している。	定期考査 ワークシート
		第2章 個人の尊重と法の支配 <ul style="list-style-type: none"> ・民主政治における個人と国家 ・基本的人権と法の支配 	○	○	○	○	a: 私たちの生活と政治や国家のかかわりや基本的人権が保障されるにいたった経緯について関心が高まっている。 b: 私たちの生活と政治や国家のかかわりや基本的人権について, 調査した内容を適切に表現する方法が身につけている。 c: 私たちの生活と政治や国家のかかわり基本的人権について, 書籍・などから具体的事例を収集している。 d: ・国家はどのような考え方を背景につくられたのかを理解し, 基本的人権が保障されるにいたった経緯についての知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

2 学期	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方	<p>・第3章 現代の民主政治と政治参加の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の基本原理 ・平和主義と安全保障 ・基本的人権の保障と新しい人権 ・国民主権と議会制民主主義 ・内閣と行政の民主化 ・裁判所と人権保障 ・地方自治と住民の福祉 ・世論形成と政治参加 	○	○	○	<p>a : 現代の民主政治のありかたや政治参加について、日本国憲法などを通して主体的に理解しようとする態度を身につけている。</p> <p>b : 日本国憲法の特徴や国会の権限、議員内閣制のしくみ、裁判所のしくみについて多面的に考察している。</p> <p>c : インターネットや書籍などの情報手段を活用して資料を収集し、政治に参加する主権者としてどのように意思決定をしていくべきか多角的に考えている。</p> <p>d : 現代の民主政治のありかたや政治参加について自分自身の問題として理解し、その知識を身につけている。</p>	定期考査 ワークシート
		<p>第4章 国際政治の動向と日本の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際連合の役割 ・核兵器の廃絶と国際平和 ・地域紛争と人種・民族問題 ・国境と領土問題 ・外交政策と日本の役割 	○	○	○	<p>a : 国際社会の一員として私たちは何をすべきか、自分自身の問題として理解しようとする態度を身につけている。</p> <p>b : 国際社会の一員として私たちは何をすべきか、討論・発表などの方法を身につけている。</p> <p>c : 国際社会の一員として私たちは何をすべきか、情報手段を用いて資料を収集し、主体的に考察している。</p> <p>d : 国際社会の一員として何をすべきかを、理解している。</p>	定期考査 ワークシート
3 学期	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方	<p>第5章現代の経済社会と私たちの生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済主体と企業の活動 ・政府の経済的役割と租税の意義 ・金融機関のはたらき ・雇用と労働問題 ・消費者保護と契約 ・社会保障と国民福祉 	○	○	○	<p>a : 経済の基本的なしくみを主体的に考える態度を身につけている。</p> <p>b : 経済のしくみについて多角的に考察している。</p> <p>c : 教科書に掲載されている写真・図版・資料などを適切に使用している。</p> <p>d : 経済の基本的なしくみについて理解し、知識を身につけている。</p>	定期考査 ワークシート
		<p>第6章国際経済の動向と日本の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の経済と南北問題 	○	○		<p>a : 国際協力はどうあるべきか、自分自身の問題として考える態度を身につけている。</p> <p>b : 国際経済の中で日本の果たすべき役割について、発表するなど、適切に表現する方法を身につけている。</p> <p>c : 国際経済の中で日本はどのような役割を果たすべきか、さまざまな情報手段を用いて、資料を収集し、具体的な事例から多角的に考察している。</p> <p>d : 国際協力はどうあるべきか、自分自身の問題として理解しその知識を身につけている。</p>	定期考査 ワークシート

	第7章 現代に生きる倫理 ・豊かな人生を求めて ・日本の伝統的なものの考え方 ・現代に生きる人間の倫理	○	○	○	a: 哲学や宗教（世界三大宗教）について、具体的に理解しようとしている。 b: 哲学や宗教（世界三大宗教）について、具体的な事例をあげて多角的に考察している。 c: 教科書に掲載されている写真・図版・資料などを適切に使用している。 d: 哲学や宗教の役割を理解し、人生を豊かに生きるための知識を身につけている。	定期考査 ワークシート
--	--	---	---	---	--	----------------

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
 c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成 30 年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史 A	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	改訂版「現代の世界史」 (山川出版社)						
副教材等	アカデミア世界史 (浜島書店)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・近現代史を中心とする歴史を知り、現在の世界におけるさまざまな出来事がなぜ起こってきたのかを考えていきましょう。
- ・詳細な内容よりも、世界の歴史の大まかな流れを日本との関係のなかで理解しましょう。
- ・身近な事柄や映画などをおして学びを深めていきましょう。

2 学習の到達目標

地理的な視野を身につけ、近世以前の諸地域世界の特質を理解した上で、大航海時代を背景にアジア世界とヨーロッパ世界が接触や交流・進出を深め世界が一体化に向かい始める状況を概略的に把握させる。また、近現代史以降一体化がさらに進んでゆく状況を、日本と関連づけながら歴史的に理解させ、あわせて人類の今後の課題について具体的に考察させる。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	提出物	定期考査 提出物	定期考査 提出物	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	自己評価
			a	b	c	d			
1学期	諸地域世界の特質 アジア諸国の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の特質 アジア諸国の繁栄 	○	○	○	○	<p>a: 地理を含め、諸地域世界の特質について関心を高めようとしている。</p> <p>b: 諸地域の特質を見だし、アジア諸国の繁栄に関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c: 諸地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。</p> <p>d: 諸地域世界の特質、アジアの諸帝国の繁栄について理解し、その知識を身に付けている。</p>	定期 考 査 提出物	
	世界の一体化とヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> 大航海と世界の一体化の始まり 16世紀の西ヨーロッパ 17～18世紀の西ヨーロッパ 16～18世紀の西東ヨーロッパ 西欧を中心とする世界の一体化 	○	○	○	○	<p>a: 大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>b: 設定された時代の諸地域の特質を見だし、世界商業の進展などに関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c: 設定された時代に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。</p> <p>d: 大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革などの動き、ヨーロッパの主権国家体制の成立について理解し、その知識を身に付けている。</p>	定期 考 査 提出物	

	近代の欧米社会	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命 ・ナショナリズムの時代 ・南北アメリカの道 	○	○	○	○	<p>a:18 世紀後期以降の諸地域世界の様子について、社会の変化と新たな社会の成立、ヨーロッパの進出によるアジア・アフリカ・ラテンアメリカの変貌に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>b:18 世紀後期以降の諸地域世界の変貌の特質を見だし、19 世紀の世界の一体化と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:18 世紀後期以降の諸地域世界の変貌に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p> <p>d:18 世紀後期以降の諸地域世界の変貌についての基本的な事柄を 19 世紀の世界の一体化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	定期 考 査 提出物
2 学期	ヨーロッパの進出とアジア	<ul style="list-style-type: none"> ・バルカン・西アジア社会の動き ・インド・東南アジアの植民地化 ・東アジアの動揺 ・東アジアの国際秩序の変容 	○	○	○	○	<p>a: 18 世紀後期以降のアジア世界の様子について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>b: 18 世紀後期以降のアジア世界の変貌の特質を見だし、ヨーロッパ社会と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c: 18 世紀後期以降のアジア世界の変貌に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p> <p>d: 18 世紀後期以降の諸地域世界の変貌についての基本的な事柄を 19 世紀のヨーロッパと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	定期 考 査 提出物
	帝国主義とアジアの民族運動	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米による世界の植民地化 ・民主運動と列強の対立 	○	○	○	○	<p>a: 帝国主義時代の特色について関心を高め、その矛盾について意欲的に学習している。</p> <p>b: 帝国主義時代の特色と社会的矛盾、植民地の抵抗運動について多角的に考察し、客観的に判断している。</p> <p>c: 植民地の抵抗運動と列強の対立に関する地図や風刺画、写真など多種類の資料を収集し、適切に活用している。</p> <p>d: 帝国主義時代の欧米諸国の動向やその社会的特色、植民地化と植民地の抵抗について理解し、知識を身につけている。植民地の抵抗運動と列強の対立について多面的に理解し、知識を身につけている。</p>	定期 考 査 提出物

3学期	二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ・民族主義の新展開 ・第二次世界大戦 	○	○	○	○	<p>a:19世紀末から20世紀初頭にみられた社会の急激な変化や、二つの世界大戦の原因や影響と平和の意義などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>b:20世紀初頭にみられた社会の急激な変化の具体的な様相や、二つの世界大戦の原因や影響と平和の意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:20世紀という時代の特質、二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格、両大戦の影響と平和の意義などに関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p> <p>d:20世紀という時代の基本的な事柄や、二つの世界大戦の原因や総力戦としての性格についての基本的な事柄を、両大戦の影響と平和の意義などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	定期 考 査 提出物
	冷戦の時代	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の形成と第三世界の登場 ・核戦争の危機 ・多極化と緊張緩和 ・冷戦の変質 ・冷戦の終焉 ・冷戦下の日本 	○	○	○	○	<p>a:第二次世界大戦後の諸地域世界について、現在まで続く課題に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている</p> <p>b:第二次世界大戦後の諸地域世界について、現在の政治・経済の動向と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>c:第二次世界大戦後の諸地域世界の問題などに関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p> <p>d:第二次世界大戦後の諸地域世界についての基本的な事柄を、世界の政治・経済の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	定期 考 査 提出物

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

2 地理歴史・公民

平成 30 年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史 B	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	高校世界史 B (山川出版)						
副教材等	アカデミア世界史 (浜島書店)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・歴史を学ぶことをとおして、現在の世界におけるさまざま出来事がなぜ起こってきたのかを考えてきましょう。
- ・身近な事柄や映画などをおして学びを深めていきましょう。

2 学習の到達目標

- ・世界の諸地域に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。
- ・世界史の大きな枠組みと流れを、日本を含む諸地域世界の歴史と関連づけながら理解させる。
- ・歴史的思考力を育て、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	世界の歴史に対する関心と問題意識を高め、国際社会に主体的に生き、平和で豊かな世界の形成に関わろうとしている。	歴史的事象から課題を見出し、世界の形成の歴史的過程、地域的特色を世界的視野に立って考察し、国際社会の変化を踏まえ判断し、その過程や結果を表現している。	諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して効果的に活用している。	世界の形成の歴史的過程について、基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	自己評価
			a	b	c	d			
1	オリエントと地中海世界／アジア・アメリカの古代文明	<ul style="list-style-type: none"> 先史の世界 古代オリエント世界 ギリシア世界 ローマ世界 インドの古代文明 東南アジアの諸文明 	○	○	○	○	a: 先史時代から古代文明成立期の社会の変化や人々の生活、文明の形成過程に対する関心と課題意識を高め、追究している。 b: 先史時代から古代文明成立期の社会の変化や人々の生活、文明の形成過程から課題を見だし、多面的・多角的に考察している。 c: 先史時代から古代文明成立期の遺物などの諸資料を活用することを通して、社会の変化や文明の形成過程について追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d: 先史時代から古代文明成立期の社会の変化や人々の生活、文明の形成過程についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 提出物での評価 受講状況観察 	
2	アジア・アメリカの古代文明／内陸アジア世界・東アジア世界の形成／内陸アジア世界・東アジア世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> 中国の古典文明 南北アメリカ文明 草原の遊牧民とオアシスの定住民 北方民族の活動と中国の分裂 東アジア文化圏の形成 東アジア諸地域の自立化 モンゴルの大帝国 	○	○	○	○	a: アジア諸地域に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: アジア諸地域の形成と展開から課題を見だし、他の地域と関連付けて多面的・多角的に考察している。 c: アジア諸地域の形成と展開に関する文献、絵画、建築などの諸資料を活用することを通して、歴史的現象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: アジア諸地域の形成と展開についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 提出物での評価 受講状況観察 	

3	イスラーム世界の形成と発展／ヨーロッパ世界の形成と発展	・イスラーム帝国の成立	○			○	a:イスラーム・ヨーロッパの各世界の社会の変化や人々の生活、文化の特色に対する関心と課題意識を高め、追究している。	・定期考査	
		・イスラーム世界の発展		○		○			
		・イスラーム化の進展		○	○		c:イスラーム・ヨーロッパの各世界の変化や人々の生活、文化に関する諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。	・受講状況観察	
		・イスラーム文明の発展							
		・西ヨーロッパ世界の成立	○						
		・東ヨーロッパ世界の成立		○					
		・西ヨーロッパ中世世界の変容	○						
		・西ヨーロッパの中世文化		○	○				

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成30年度 社会科

教科	社会	科目	日本史 A	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書	日本史 A「高校日本史 A 現代からの歴史」 (東京出版)						
副教材等	山川 小説日本史図録 (山川出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

歴史を学ぶ上での「過去を学ぶことで現代を学ぶ」という考えの元、特に近現代以降に焦点を置き今起きている問題などに注目し改めて考えることを促す授業を心がけます。その点から、常日頃から新聞やネットニュースなど情報を受け取る意識を心がけてください。
自主的に学ぶことから改めて疑問や意見は生まれます。それを自ら調べたり教員に聞いたりして、解決していくことでさらに学びは深まります。

2 学習の到達目標

- ・日本史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察する。
- ・日本の文化と伝統の特色についての認識を深める。
- ・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観点の趣旨	日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、世界との関わりやその影響を意識しつつ意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見だし、分析した上で、総合的に考察できる。現代に生きる一人の人間として意見を表現することができる。	日本の歴史の展開に関する諸資料や現代に関連した資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、関連付けて世界との関わりやその影響を総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・期考査 ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	自己評価
			a	b	c	d			
1	第3章 二つの世界大戦と日本	1 第一次世界大戦と帝国日本 3 軍国日本への道 4 太平洋戦争	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の時期に、日本が中国への侵略を進めた経緯を学び、そのことが日本と中国や欧米列強との関係に与えた影響について考察したことを表現しようとしている。 ・大日本帝国について、人々がどのような理由、規模で移動したのかを学び、大日本帝国の実態、それを構成した人々の生活について理解している。 ・満州事変が日中戦争に発展した経緯と、日本が中国との講和交渉の道を閉ざし、日中戦争が長期化していく過程について学習する。 ・ヨーロッパ情勢が変化する中で日本がドイツとの関係を深めたこと、中国で国共合作を模索する動きが強まっていたことと、日中全面戦争との関連を考察したことを表現しようとしている。 ・第二次世界大戦が始まると、ドイツとの同盟を強めることで英米との戦争も辞さないという空気が高まったことが日米開戦につながったことを理解し、太平洋戦争の経緯を学習する。 ・戦局が悪化した後も、戦争を継続させたことが、国内・占領地での過酷な動員や徴発による人々の暮らしの圧迫や、米軍の本土空襲による大きな被害につながったことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察 	

1	第4章 第二次世界大戦後の国際社会と日本	1 現代世界の開幕と日本の戦後改革	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄戦の実態を学び、なぜ住民に大きな被害が出たのか考察したことを表現しようとしている。 ・平和を模索する動きの中から国際連合が成立した一方、アメリカとソ連を二つの極とする東西冷戦が始まったことを理解している。 ・敗戦により日本の領土が縮小したことにもなる人々の移動について学習する。 ・冷戦下で東アジアの再編が進められたため、民族分断を余儀なくされた国があったことを理解している。 ・GHQの指令を受けて進められた民主化及び非軍事化の内容と経緯について学び、GHQの改革が戦後の日本社会に与えた影響について考察したことを表現しようとしている。 ・日本国憲法制定の経緯と三原則について理解し、新憲法に基づいて、多くの法律の改正や制定が行われ、改革が進められたことを学習する。 ・戦後社会が直面した危機的な状況を学び、そうした危機的な状況の中にあっても、自由と平和のもとで人々は活発に活動するようになり、大衆文化が復興したほか、学問や言論の分野でも進展が見られたことを学習する。 ・冷戦下で日米政府が、日本の経済再建を優先することで合意したため、日本の国際経済に復帰する体制が整えられ、朝鮮戦争の特需により経済を復興させられた一方、政治は保守化し、労働運動も圧迫されたことを理解している。 ・朝鮮戦争の勃発など東西冷戦が激しくなる中、日本がアメリカ側の諸国のみとサンフランシスコ平和条約を調印し、独立を回復した経緯を学習する。 ・アメリカの影響下で、ソ連や韓国等と国交交渉を行い、国際社会に復帰していく経緯を理解する。 ・東西冷戦が続く中で防衛力が増強され、保守政党が合同して、保守派優位のもとで政治を安定させる55年体制が作られた経緯を理解している。 ・日米安全保障条約の改正を目指した政府の主張とそれに反対した人々の意見を整理し、安保条約が改定された経緯を理解している。 ・人権を守るために声をあげる人々が現れたことを理解している。 ・炭鉱の町から工場の町へと変化していったいわき市の例を参考にして、社会が大きく変容していった時代の地域について考察。したことを表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察
		2 高度経済成長の時代	○	○		

1	第5章 現代の世界と日本	<p>1 国際秩序のゆらぎと経済大国日本</p> <p>2 冷戦の終焉と日本</p>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・経済成長を優先した結果公害などの社会問題が生じたため、環境や福祉、平和、女性差別の撤廃等に対する人々の関心が高まり、革新勢力への支持が高まったことを学習する。 ・ベトナム戦争への反発から沖縄の日本復帰を目指す運動が高まったにもかかわらず、基地負担を残す形で沖縄が日本に復帰した経緯を学習する。 ・冷戦構造に変化が生じる中、日本やアメリカと中華人民共和国との国交正常化が実現したことを理解している。 ・ブレトンウッズ体制の崩壊と石油危機により高度経済成長の時代が終わると、英米では新自由主義が広がったこと、日本では企業の減量経営により安定成長が続いたことを学習する。 ・自民党が金権腐敗と派閥抗争への批判が高まる中でも政権を維持し、1980年代には新自由主義の影響を受け行政改革を進めたことを理解している。 ・石油危機後も輸出を増加させ、欧米諸国との貿易摩擦を抱えながら経済成長を続けた日本で、バブル景気が発生し崩壊した経緯を理解し、当時の人々の生活や文化を学習する。 ・電気街からサブカルチャーの街へと変化していった秋葉原について学び、地域の変容の要因について考察したことを表現しようとしている。 ・冷戦が終結した後、グローバル化が進展する一方、世界各地でナショナリズムが高まり地域紛争が多発するようになる中、日米同盟が強化されてきたことを学習する。 ・冷戦が終結した後、EU や APEC などの地域統合・地域協力が目指される一方、東アジアでは冷戦時代の分断が継続し、地域の不安定要因となっていることを学習する。 ・冷戦後も沖縄の基地問題が解決されていないことを理解している。 ・バブル経済の崩壊とともに、政官財の癒着を生み出した自民党の長期政権への批判が高まり 55 年体制が崩壊したことを学び、その後、政界再編や構造改革が目指されてきた経緯を理解する。 ・バブル経済の崩壊後、公共事業などによる経済対策を行ったにもかかわらず、不況を克服できず、産業の空洞化と財政赤字の深刻化が進んだことを学習する。 ・新自由主義的な改革により、2002 年から長期の好況が続いたにもかかわらず、個人消費が伸びず日本社会の閉塞感が増していった要因について考察したことを表現しようとしている。 ・現在、世界で進んでいるグローバル化の意味を理解し、重層化する世界の中で日本が国内外で抱えている課題、果たすべき役割について考察したことを表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察
---	--------------	--	---	---	---	---	--	---

- ※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成30年度 社会科

教科	社会	科目	日本史B	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	日本史B (実教出版)						
副教材等	図説 日本史通覧 (帝国書院)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

歴史的現在という言葉があります。現在があるのは歴史があるからです。歴史を知れば、現在の見方や価値観が変わります。歴史を学び、考え、これからの社会を生きていくために必要な歴史的知識や考察力を身に付けてください。

歴史を学ぶには、授業だけでなく、自主的に学ぶ必要があります。意欲的に自習をしましょう。そこから湧いてくる疑問を自ら調べたり教員に聞いたりして、解決していくことでさらに学びは深まります。

2 学習の到達目標

- ・日本史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察する。
- ・日本の文化と伝統の特色についての認識を深める。
- ・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用 of 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、世界との関わりやその影響を意識しつつ意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見だし、分析した上で、総合的に考察できる。また、それを表現することができる。	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取りたり図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、関連付けて世界との関わりやその影響を総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・期考査 ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	自己評価
			a	b	c	d			
1	日本文化のあけぼの、 水稻農業の開始と 社会生活の進展	<ul style="list-style-type: none"> ・日本最古の文化 ・縄文時代の社会と文化 ・弥生時代の社会と文化 ・小国の分立と邪馬台国 ・大和政権の成立・発展 ・古墳の成立と発展 ・大陸文化の接取 	○	○	○	○	<p>a: 旧石器時代から古墳時代の社会の変化や人々の生活、国家の形成過程に対する関心と課題意識を高め、追究している。</p> <p>b: 旧石器時代から古墳時代の社会の変化や人々の生活、国家の形成過程から課題を見だし、東アジア世界の状況と関連付けて多面的・多角的に考察している。</p> <p>c: 旧石器時代から古墳時代の遺物や中国史書などの諸資料を活用することを通して、社会の変化や国家の形成過程について追究し考察した過程や結果を適切に表現している。</p> <p>d: 旧石器時代から古墳時代の社会の変化や人々の生活、国家の形成過程についての基本的な事柄を東アジア世界の状況と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察 	

2	東アジア文化の影響と律令制度の成立、摂関政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> ・推古朝の政治と飛鳥文化 ・律令国家成立期の政治と文化 ・律令体制とその実態 ・天平文化 ・平安初期の政治と地方の動向 ・摂関政治と地方の動向 ・国分文化 ・荘園公領制の形成と武士団 ・院政と平氏政権 	○	○	○	○	<p>a: 奈良・平安時代の社会の変化や人々の生活、文化の特色に対する関心と課題意識を高め、追究している。</p> <p>b: 奈良・平安時代の社会の変化や人々の生活、文化に課題を見だし、国家形成と律令体制の確立過程、東アジア世界との交流などと関連付けて多面的・多角的に考察している。</p> <p>c: 奈良・平安時代の社会の変化や人々の生活、文化に関する諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。</p> <p>d: 奈良・平安時代の社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、家形成と律令体制の確立過程、東アジア世界との交流などと関連付けて理解し、その知識を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察 	
---	-----------------------------	--	---	---	---	---	--	---	--

3	中世社会の成立と文化の新気運、武家社会の展開と室町文化	・鎌倉幕府の成立	○		○	a:公領の変質と荘園拡大、武士の台頭と院政・平氏政権から鎌倉幕府の成立・進展・衰退、鎌倉武士と農村、鎌倉文化、建武の新政、室町幕府の成立と南北朝の動乱までに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト
		・武家政治の展開		○	○		
		・蒙古襲来と幕府の衰退		○	○	c:公領の変質と荘園の拡大、武士の台頭と院政・平氏政権から鎌倉幕府の成立・進展・衰退、鎌倉武士と農村、鎌倉文化、建武の新政、室町幕府の成立と南北朝の動乱に関する文献、絵画、建築などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。	
		・鎌倉文化	○		○		
		・南北朝の動乱		○	○		
		・室町幕府の政治と外交	○		○		
		・惣村の発展と応仁の乱		○	○		
		・室町文化	○		○		

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

2 地理歴史・公民

学校番号	117
------	-----

平成30年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史 B	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	高校世界史 B (山川出版社)						
副教材等	アカデミア世界史 (浜島書店)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・グローバル化する現代の世界において、様々な国や地域の歴史を知り、日本との結びつきを考えることはとても重要なことです。
- ・今までなじみの薄かった国や地域についても、まず関心を持つように努めてみてください。
- ・歴史に対する興味・関心を高めるうえで、歴史小説や映画などに積極的に親しむのもよいでしょう。

2 学習の到達目標

- ・世界史の大きな流れを理解したうえで、つねに世界と日本の結びつきについて関心を持ち、考えることができる。
- ・文化の多様性について深く理解する。そのために写真や動画などを含む諸資料に数多く触れる機会を持つ。
- ・日本のみならず世界に眼を向け、国際的な視野を持った市民としての教養を育む。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	世界史に対する関心を高めて意欲的に学習するとともに、日本史との関連についても積極的に学ぼうとしている。	世界の諸地域の結びつきや相互に及ぼし合った影響について多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。	世界史に関する諸資料を参照し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	世界史についての基本的な事項を日本史と関連づけつつ理解し、その知識を身につけている。
評 価 方 法	ノート ワークシート 定期考査	ノート ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	確認テスト 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	内陸アジア世界・東アジア世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・遊牧民とオアシス定住民 ・北方民族と中国の分裂 ・東アジア文化圏の形成 	○		○	○	a: 遊牧民やオアシス定住民の暮らしや歴史に関心を持つとともに、東アジアの歴史に及ぼした影響について意欲的に学習しようとしている。 b: 遊牧民、オアシス定住民や中国が日本に及ぼした影響について多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。 c: 遊牧民やオアシス定住民の活動や独自の文化について諸資料を参照し、読み取ったり図表などにまとめている。 d: 遊牧民やオアシス定住民の活動や文化について、さらに東アジアとの関係について基本的な事項を理解し、身につけている。	ノート ワークシート 確認テスト 定期考査
	イスラーム世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム帝国の成立 ・イスラーム世界の発展 	○	○	○	○		
2学期	アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア世界の動向 ・清と隣接諸地域 	○	○		○	a: 明、清の成立と東アジア世界への影響について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。 b: 明、清の成立と東アジア世界への影響について多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。 c: 明、清の成立と東アジア世界への影響について諸資料を参照し、読み取ったり図表などにまとめている。 d: 明、清の成立と東アジア世界への影響について基本的な事項を理解し、身につけている。	ノート ワークシート 確認テスト 定期考査

	近世ヨーロッパ世界の形成	・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンス	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a: 大航海時代やルネサンスなどを通じてヨーロッパ世界がその後の拡大に向けて大きく変化したことについて関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。 b: 大航海時代やルネサンスなどを通じてヨーロッパ世界がその後の拡大に向けて大きく変化したことについて多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。 c: 大航海時代やルネサンスなどを通じてヨーロッパ世界がその後の拡大に向けて大きく変化したことについて諸資料を参照し、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 大航海時代やルネサンスなどを通じてヨーロッパ世界がその後の拡大に向けて大きく変化したことについて基本的な事項を理解し、身につけている。	ノート ワークシート 確認テスト 定期考査
3 学 期		・宗教改革 ・欧州主権国家体制の形成	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○		ノート ワークシート 確認テスト 定期考査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

2 地理歴史・公民

学校番号	117
------	-----

平成30年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史 B	単位数	3 単位	年次	3 年次
使用教科書	高校世界史 B (山川出版社)						
副教材等	アカデミア世界史 (浜島書店)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・グローバル化する現代の世界において、様々な国や地域の歴史を知り、日本との結びつきを考えることはとても重要なことです。
- ・今までなじみの薄かった国や地域についても、まず関心を持つように努めてみてください。
- ・歴史に対する興味・関心を高めるうえで、歴史小説や映画などに積極的に親しむのもよいでしょう。

2 学習の到達目標

- ・世界史の大きな流れを理解したうえで、つねに世界と日本の結びつきについて関心を持ち、考えることができる。
- ・文化の多様性について深く理解する。そのために写真や動画などを含む諸資料に数多く触れる機会を持つ。
- ・日本のみならず世界に眼を向け、国際的な視野を持った市民としての教養を育む。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	世界史に対する関心を高めて意欲的に学習するとともに、日本史との関連についても積極的に学ぼうとしている。	世界の諸地域の結びつきや相互に及ぼし合った影響について多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。	世界史に関する諸資料を参照し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	世界史についての基本的な事項を日本史と関連づけつつ理解し、その知識を身につけている。
評 価 方 法	ノート ワークシート 定期考査	ノート ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	確認テスト 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	内陸アジア世界・東アジア世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・遊牧民とオアシス定住民 ・北方民族と中国の分裂 ・東アジア文化圏の形成 	○		○	○	a: 遊牧民やオアシス定住民の暮らしや歴史に関心を持つとともに、東アジアの歴史に及ぼした影響について意欲的に学習しようとしている。 b: 遊牧民、オアシス定住民や中国が日本に及ぼした影響について多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。 c: 遊牧民やオアシス定住民の活動や独自の文化について諸資料を参照し、読み取ったり図表などにまとめている。 d: 遊牧民やオアシス定住民の活動や文化について、さらに東アジアとの関係について基本的な事項を理解し、身につけている。	ノート ワークシート 確認テスト 定期考査
	イスラーム世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム帝国の成立 ・イスラーム世界の発展 	○	○	○	○	a: イスラームの教えや社会の形成過程とその発展について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。 b: イスラームの教えと社会が現代の世界に及ぼしている影響について多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。 c: イスラームの教えと社会の形成過程とその発展について諸資料を参照し、読み取ったり図表などにまとめている。 d: イスラームの教えや社会の形成過程とその発展について基本的な事項を理解し、身につけている。	ノート ワークシート 確認テスト 定期考査
	内陸アジア世界・東アジア世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア諸地域の自立化 ・モンゴル帝国 	○		○	○	a: 東アジア地域の政治的変動とモンゴルによる広域支配について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。 b: 東アジア地域の政治的変動とモンゴルによる広域支配について多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。 c: 東アジア地域の政治的変動とモンゴルによる広域支配について諸資料を参照し、読み取ったり図表などにまとめている。 d: 東アジア地域の政治的変動とモンゴルによる広域支配について基本的な事項を理解し、身につけている。	ノート ワークシート 確認テスト 定期考査

2 学期	アジア諸地域の繁栄	・東アジア世界の動向 ・清と隣接諸地域	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a: 明、清の成立と東アジア世界への影響について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。 b: 明、清の成立と東アジア世界への影響について多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。 c: 明、清の成立と東アジア世界への影響について諸資料を参照し、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 明、清の成立と東アジア世界への影響について基本的な事項を理解し、身につけている。	ノート ワークシート 確認テスト 定期考査
	近世ヨーロッパ世界の形成	・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンス ・宗教改革 ・欧州主権国家体制の形成	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a: 大航海時代やルネサンスなどを通じてヨーロッパ世界がその後の拡大に向けて大きく変化したことについて関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。 b: 大航海時代やルネサンスなどを通じてヨーロッパ世界がその後の拡大に向けて大きく変化したことについて多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。 c: 大航海時代やルネサンスなどを通じてヨーロッパ世界がその後の拡大に向けて大きく変化したことについて諸資料を参照し、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 大航海時代やルネサンスなどを通じてヨーロッパ世界がその後の拡大に向けて大きく変化したことについて基本的な事項を理解し、身につけている。	ノート ワークシート 確認テスト 定期考査
3 学期	近世ヨーロッパ世界の展開	・重商主義と啓蒙専制主義 ・欧州諸国の海外進出 ・17～18 世紀欧州の文化と社会	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: ヨーロッパの世界進出について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。 b: ヨーロッパの世界進出について多面的・多角的に考察し、その内容を適切に表現している。 c: ヨーロッパの世界進出について諸資料を参照し、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: ヨーロッパの世界進出について基本的な事項を理解し、身につけている。	ノート ワークシート 確認テスト 定期考査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成30年度 社会科

教科	社会	科目	日本史B	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	日本史B (実教出版)						
副教材等	図説 日本史通覧 (帝国書院)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

歴史的現在という言葉があります。現在があるのは歴史があるからです。歴史を知れば、現在の見方や価値観が変わります。歴史を学び、考え、これからの社会を生きていくために必要な歴史的知識や考察力を身に付けてください。

歴史を学ぶには、授業だけでなく、自主的に学ぶ必要があります。意欲的に自習をしましょう。そこから湧いてくる疑問を自ら調べたり教員に聞いたりして、解決していくことでさらに学びは深まります。頑張りましょう。

2 学習の到達目標

- ・日本史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察する。
- ・日本の文化と伝統の特色についての認識を深める。
- ・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、世界との関わりやその影響を意識しつつ意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見だし、分析した上で、総合的に考察できる。また、それを表現することができる。	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、関連付けて世界との関わりやその影響を総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・期考査 ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	自己評価
			a	b	c	d			
1	7章 幕藩体制の展開と近世の文化	1 ヨーロッパ人の来航 2 織豊政権 3 桃山文化 4 幕藩体制の成立	○	○	○	○	a: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化に対して関心と課題意識を持ち意欲的に追求している。 b: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化から課題を見だし、ヨーロッパ諸との接触、鎖国による対外関係と関連付けて、多面的・多角的に考察している。 c: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化に関する文献、絵画、地図の諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化についての基本的な事柄をヨーロッパ諸国との接触と鎖国による対外関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察	

1	7章 幕藩体制の展開と近世の文化	5 鎖国 6 近世の生活と文化	○	○	○	<p>a: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。</p> <p>b: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質から課題を見だし、欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて、多面的・多角的に考察している。</p> <p>c: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に関する文献、絵画、グラフなどの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。</p> <p>d: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察 	
---	------------------	--------------------	---	---	---	--	---	--

1	8章 幕藩体制の動揺と文化の成熟	1 幕府政治の転換 2 経済の発展 3 学芸の発展と元禄文化 4 幕藩体制の動揺と幕政の改革 5 欧米列強の接近と天保の改革 6 江戸中・後期の文化	○	○	○	○	<p>a: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や、世界史的視野を意識しながら立憲政治の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、課題意識を高め、意欲的に追究している。</p> <p>b: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や、立憲政治の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、課題を見いだし、世界史的背景と関連付けて多面的多角的に考察している。</p> <p>c: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や立憲政治の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程に関する文献、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。</p> <p>d: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程に関する基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察	
---	---------------------	---	---	---	---	---	--	---	--

2	9章 近代への転換 10章 近代国家の形成	1 開国		○	○	○	<p>a: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題意識を高め、意欲的に追究している。</p> <p>世界史的視野を意識しながら、立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。</p> <p>b: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題を見だし、世界史的背景と関連付けて多面的多角的に考察している。</p> <p>c: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程に関する文献、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。</p> <p>d: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	<p>・定期考査</p> <p>・提出物での評価</p> <p>・定期的な小テスト</p> <p>・受講状況観察</p>
		2 明治維新		○		○		
		3 四民平等と富国強兵	○	○	○			
		4 初期の外交と国内政治	○	○	○			
		5 文明開化		○		○		
		1 民権運動の展開	○	○		○		
		2 立憲政治への道		○		○		
		3 初期議会と日清戦争	○	○		○		
		4 政党の進出と日露戦争	○	○		○		
		5 産業革命と社会の変化	○	○	○			
		6 近代文化の形成と展開	○		○			

2	11章 両大戦間の日本と市民文化 12章 十五年戦争と日本	1 第一次世界大戦		○	○	○	a: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成、太平洋戦争や第二次世界大戦などについて国際社会の動向、国内の政治・経済の動向などに対する関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察
		2 大戦後の内外環境	○	○	○	○		
		3 政党政治の展開		○		○	c: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成、また太平洋戦争や第二次世界大戦などについて国際社会と国内の政治・経済の動向と関連付けながら文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。	
		4 市民文化の展開		○		○		d: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成、また太平洋戦争や第二次大戦などについて、国際社会と国内の政治・経済の動向と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
		1 満州事変	○	○	○			
		2 日中戦争	○			○		
		5 アジア・太平洋戦争	○	○		○		

3	13章 現代の日本と新しい文化	1 占領と民主改革		○	○	○	a: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移について、相互の動きを関連付けて多面的多角的に考察している。 c: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察
		2 サンフランシスコ講和会議と保安体制	○	○	○			
		3 高度経済成長下の日本		○	○	○		
		4 経済大国日本と国民生活	○	○	○			
		3 世界史の転換と日本	○	○	○			

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成30年度 社会科

教科	社会	科目	日本史B	単位数	3単位	年次	3年次
使用教科書	日本史B (実教出版)						
副教材等	図説 日本史通覧 (帝国書院)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

歴史的現在という言葉があります。現在があるのは歴史があるからです。歴史を知れば、現在の見方や価値観が変わります。歴史を学び、考え、これからの社会を生きていくために必要な歴史的知識や考察力を身に付けてください。

歴史を学ぶには、授業だけでなく、自主的に学ぶ必要があります。意欲的に自習をしましょう。そこから湧いてくる疑問を自ら調べたり教員に聞いたりして、解決していくことでさらに学びは深まります。頑張りましょう。

2 学習の到達目標

- ・日本史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察する。
- ・日本の文化と伝統の特色についての認識を深める。
- ・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心を持ち、世界との関わりやその影響を意識しつつ意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見だし、分析した上で、総合的に考察できる。また、それを表現することができる。	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、関連付けて世界との関わりやその影響を総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・期考査 ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	自己評価
			a	b	c	d			
1	7章 幕藩体制の展開と近世の文化	1 ヨーロッパ人の来航 2 織豊政権 3 桃山文化 4 幕藩体制の成立	○	○		○	a: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化に対して関心と課題意識を持ち意欲的に追求している。 b: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化から課題を見だし、ヨーロッパ諸との接触、鎖国による対外関係と関連付けて、多面的・多角的に考察している。 c: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化に関する文献、絵画、地図の諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化についての基本的な事柄をヨーロッパ諸国との接触と鎖国による対外関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察	

1	7章 幕藩体制の展開と近世の文化	5 鎖国 6 近世の生活と文化	○	○	○	<p>a: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。</p> <p>b: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質から課題を見だし、欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて、多面的・多角的に考察している。</p> <p>c: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に関する文献、絵画、グラフなどの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。</p> <p>d: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察 	
---	------------------	--------------------	---	---	---	--	---	--

1	8章 幕藩体制の動揺と文化の成熟	1 幕府政治の転換 2 経済の発展 3 学芸の発展と元禄文化 4 幕藩体制の動揺と幕政の改革 5 欧米列強の接近と天保の改革 6 江戸中・後期の文化	○	○	○	○	<p>a: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や、世界史的視野を意識しながら立憲政治の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、課題意識を高め、意欲的に追究している。</p> <p>b: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や、立憲政治の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、課題を見いだし、世界史的背景と関連付けて多面的多角的に考察している。</p> <p>c: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や立憲政治の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程に関する文献、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。</p> <p>d: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程や立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程に関する基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察	
---	---------------------	---	---	---	---	---	--	---	--

2	9章 近代への転換 10章 近代国家の形成	1 開国		○	○	○	a: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題意識を高め、意欲的に追究している。 世界史的視野を意識しながら、立憲政の成立から日露戦争後までの近代国家の展開過程について、関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題を見だし、世界史的背景と関連付けて多面的多角的に考察している。 c: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程に関する文献、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察
		2 明治維新		○		○		
		3 四民平等と富国強兵	○	○	○			
		4 初期の外交と国内政治	○	○	○			
		5 文明開化		○		○		
		1 民権運動の展開	○	○		○		
		2 立憲政治への道		○		○		
		3 初期議会と日清戦争	○	○		○		
		4 政党の進出と日露戦争	○	○		○		
		5 産業革命と社会の変化	○	○	○			
		6 近代文化の形成と展開	○		○			

2	1 1章 両大戦間の日本と市民文化 1 2章 十五年戦争と日本	1 第一次世界大戦		○	○	○	a: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成、太平洋戦争や第二次世界大戦などについて国際社会の動向、国内の政治・経済の動向などに対する関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察
		2 大戦後の内外環境	○	○	○	○		
		3 政党政治の展開		○		○	c: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成、また太平洋戦争や第二次世界大戦などについて国際社会と国内の政治・経済の動向と関連付けながら文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。	
		4 市民文化の展開		○		○	d: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成、また太平洋戦争や第二次大戦などについて、国際社会と国内の政治・経済の動向と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	
		1 満州事変	○	○	○			
		2 日中戦争	○			○		
		5 アジア・太平洋戦争	○	○		○		

3	13章 現代の日本と新しい文化	1 占領と民主改革		○	○	○	a: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移について、相互の動きを関連付けて多面的多角的に考察している。 c: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察
		2 サンフランシスコ講和会議と保安体制	○	○	○			
		3 高度経済成長下の日本		○	○	○		
		4 経済大国日本と国民生活	○	○	○			
		3 世界史の転換と日本	○	○	○			

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成30年度 社会科

教科	社会	科目	地理A	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「高等学校新地理A」(帝国書院)						
副教材等	「基本地図帳」(二宮書店)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

今日の世界には、環境問題、資源・エネルギー問題、民族対立、災害など、さまざまな課題が山積しています。みなさんが地理を学ぶことによって、こうした課題を解決していく力を少しでも身につけられるよう、授業を展開していきます。授業の中で出てきた疑問については、すぐに担当者に確認する癖をつけてください。

2 学習の到達目標

現代世界の地理的な諸課題について地域性をふまえて考察させ、世界の地理的認識を養うとともに地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	地理に対する関心を高め、地球的課題の地理的考察を行う。社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	環境、人口などの課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 提出物での評価 受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 提出物での評価 受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 提出物での評価 受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 提出物での評価 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	自己評価
			a	b	c	d			
1学期 中間まで	第1部1章 地球儀や地図からとらえる現代世界	【2節】 グローバル化が進む世界					a: グローバル化が進む現代社会に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 b: 情報通信の発達と地域性についての課題や、観光の国際化と人の移動に関する課題を見出し、地域性や歴史的背景、日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 国家間の結びつきの変化や、現代世界の経済機構を表す地図や統計、世界を結ぶ交通網の特性や地域性、動向に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: グローバル化が進む世界に関する基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・小テスト ・受講状況観察	
		1 結びつきを強める現代世界	○			○			
		2 拡大する世界の貿易	○		○	○			
		3 世界を結ぶ交通	○		○	○			
		4 世界を一つに結ぶ通信	○	○	○	○			
		5 観光と人の移動のグローバル化	○	○		○			

1学期期末まで	第1部2章 人間生活を取り巻く環境	【2節】 人々の生活と気候						a: 生活と気候とのかかわり、熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・小テスト
		1 生活と気候のかかわり	○				○		
		2 熱帯の気候と人々の生活	○	○	○	○	○		
		3 乾燥帯の気候と人々の生活	○	○	○	○	○		
		4 温帯の気候と人々の生活	○	○	○	○	○		
		5 亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活	○	○	○	○	○		b: 熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の気候の特徴や人々の暮らしについて、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: 熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の気候および植生・土壌の特徴、分布に関する地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 気候要素と気候因子、ケッペンの気候区分、熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の気候の成り立ちと。それらの地域に暮らす人々の生活についての基本的な事からや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。

2学期中間まで	第1部2章 人間生活を取り巻く環境	【3節】 人々の生活と産業・文化						
		1 生活を支える世界の農業	○		○	○	a: 生活を支える世界の農業や工業、生活と宗教・言語のかかわりに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	・定期考査 ・提出物での評価
		2 生活を支える世界の工業	○		○		b: 宗教・言語と生活・文化とのかかわりや宗教・言語をめぐる課題を見出し、地域性や歴史的背景、日常生活との関連をふまえて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・小テスト ・受講状況観察
		3 生活と文化のかかわり	○	○			c: 世界の農業地域や工業地域に関する地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 世界の農業の種類や農業地域の分布、農業をめぐる動向、世界の諸地域にみられる言語や宗教の特徴および生活・文化についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。	

2学期期末まで	第1部3章 世界の諸地域の生活・文化	【4節】 南アジアの生活・文化						a: インドとその周辺、アフリカの自然環境に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 b: インドのヒンドゥー教を中心とした社会の歴史的背景をふまえ、地域の変容の実態を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c: アフリカの植民地支配を表す地図や統計などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: インドとその周辺、アフリカについての基本的な事からや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・小テスト ・受講状況観察
		1 南アジアの自然環境	○	○	○				
		2 南アジアの歩みとヒンドゥー教	○	○	○				
		3 南アジアの産業の発展	○	○	○				
		【6節】 サハラ以南のアフリカの生活・文化							
		1 サハラ以南のアフリカの自然環境	○		○	○			
2 サハラ以南のアフリカの歴史と文化	○		○	○					
3 変わるサハラ以南のアフリカ	○		○	○					

3学期学年末まで	第1部3章 世界の諸地域の生活・文化	【9節】 アングロアメリカの生活・文化					a: アメリカ合衆国の移民の歴史と多文化社会に対して、またラテンアメリカの混血社会と多様な文化に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	・定期考査 ・提出物での評価 ・小テスト ・受講状況観察
		1 アングロアメリカの自然環境	○	○	○			
		2 移民の歴史と多文化社会	○	○	○			
		3 大規模な農業とアグリビジネス	○	○	○			
		4 アングロアメリカの鉱工業とその変化	○	○	○		b: アメリカ合衆国の適地適作の農業について、またアメリカ合衆国の工業の変遷について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
		5 アングロアメリカの結びつき	○	○	○			
		【10節】 ラテンアメリカの生活・文化						
		1 ラテンアメリカの自然環境	○	○	○		c: ラテンアメリカ諸国の言語と民族を表す地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	
		2 混血社会と多様な文化	○	○	○			
		3 ラテンアメリカの農業とその変化	○	○	○			
4 ラテンアメリカの工業と経済発展	○	○	○		d: アメリカ合衆国やラテンアメリカの国々について、基本的な事ながらや追究の方法を理解し、その知識を身につけている。			

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成30年度 社会科

教科	社会	科目	政治経済	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	政治・経済 (東京書籍)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

様々な現代の政治や経済の基本を学習することによって、自らの社会人としての生き方や他人との接し方が変わります。これからの社会を生きていくために必要な社会的知識や考察力を身に付けてください。政治経済の授業は、単に知識暗記だけでなく、日常のニュースからも学ぶ必要があります。意欲的に時事問題に関心を持ち、そこから湧いてくる疑問を自ら調べたり教員に聞いたりして、解決していくことでさらに学びは深まります。

2 学習の到達目標

- ・政治・経済を、国際的視野に立って総合的に考察する。
- ・時事的側面の強い政治経済の内容を身近な感覚で、俯瞰的に捉えられる基礎的認識力を養う。
- ・日本の政治・経済についての特色を歴史的、客観的に深め、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用 of 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	政治経済の学習を暗記ではなく、俯瞰的に捉え、世界との関わりやその影響を意識しつつ意欲的にそれらを探求する態度を身につける努力をしている。	現代の政治・経済の事象に問題を見だし、分析した上で、総合的に考察できる。また、それを表現することができる。	政治・経済に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	政治・経済についての基本的な事柄を、関連付けて国際社会との関わりやその影響を総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・受講状況観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	自己評価
			a	b	c	d			
1	現代の経済	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の資本主義経済 ・現代経済のしくみ ・日本経済の発展と産業構造の変化 ・福祉社会と日本経済の課題 ・国民経済と国際経済 	○	○	○	○	<p>a: 現代の経済の特徴等について関心と課題意識を高め、追究している。</p> <p>b: 現代の経済のしくみを人々の生活、国レベルから課題を見だし、現代社会の状況と関連付けて多面的・多角的に考察している。</p> <p>c: 現代の経済の諸資料を活用することを通して、社会の変化や国の財政について追究し考察している。</p> <p>d: 現代の経済についての基本的な事柄を国レベルの状況と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察 	
2	現代の政治	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の基本原則 ・日本国憲法の基本原則 ・日本の政治機構 ・現代政治の特質と課題 ・現代の国際政治 	○	○	○	○	<p>a: 現代政治に対する関心と課題意識を高め、追究している。</p> <p>b: 現代政治における人々の生活等に課題を見だし、個人と国家との連関を多面的・多角的に考察している。</p> <p>c: 現代政治に関する諸資料を活用することを通して、政治的判断を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。</p> <p>d: 現代政治についての基本的な事柄を、俯瞰的な観点から様々な国際関係などと関連付けて理解し、その知識を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察 	

3	現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会の諸課題 ・国際社会の諸課題 	○	○	○	○	<p>a: 日本社会や国際社会の諸課題に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。</p> <p>b: 日本社会の諸課題と国際社会の諸課題を関連付けて多面的・多角的に考察している。</p> <p>c: 日本社会や国際社会などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。</p> <p>d: 日本社会や国際社会の諸課題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物での評価 ・定期的な小テスト ・受講状況観察 	
---	----------	--	---	---	---	---	--	---	--

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。